

北海道大学シラバス					
■ ■ 科目名					
観光情報メディア論演習					
■ ■ 講義題目					
■ ■ 責任教員 (所属)					
山田 義裕 (大学院メディア・コミュニケーション研究院)					
■ ■ 担当教員 (所属)					
山田 義裕 (大学院メディア・コミュニケーション研究院)					
■ ■ 科目種別				■ ■ 他学部履修等の可否	可
■ ■ 開講年度	2019	■ ■ 期間	2 学期	■ ■ 時間割番号	083231
■ ■ 授業形態		■ ■ 単位数	2	■ ■ 対象年次	1~
■ ■ 対象学科・クラス	国際広報メディア・観光学専攻			■ ■ 補足事項	
■ ■ ナンバリングコード	IMC_MCTS 6200				
■ ■ 大分類コード	■ ■ 大分類名称				
IMC_MCTS	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)				
■ ■ レベルコード	■ ■ レベル				
6	大学院 (修士・専門職) 専門科目 (発展的な内容の科目、研究指導科目)				
■ ■ 中分類コード	■ ■ 中分類名称				
2	コース融合専門科目				
■ ■ 小分類コード	■ ■ 小分類名称				
0	コース融合専門科目				
■ ■ 言語					
日本語で行う授業					

## ■ ■ キーワード

拡張現実、仮想現実、参加型文化、匿名コミュニケーション、モバイルコミュニケーション、Web 2.0、情報化、消費化

## ■ ■ 授業の目標

本演習は、情報メディア研究と観光研究とを架橋する際に必要となる理論的視座や方法論を習得するための科目です。情報メディアが私たちの社会行動、とりわけ観光行動にどのような影響を及ぼしてきたかについて、テレビの大衆化、電話の個人利用の普及からインターネットの誕生とその後のソーシャルメディアの進展までを視野に入れて考察します。また Society5.0時代における、バーチャル空間での交流 (participatory culture) と現実空間における観光行動をはじめとする社会活動との新たな関係を「拡張現実」 (augmented reality) をキーワードに考察することも本演習のテーマです。

本演習の目的は三つあります。

第一の目的は、情報通信技術の発達と情報インフラの充実によりもたらされた巨大な情報空間が、私たちのコミュニケーション様式や消費形態にどのような影響を及ぼしているかを考察することです。特に、最近のソーシャルメディアの大衆化が、私たちのコミュニケーションと消費の形をどう変えつつあるのかを、情報メディア論や消費社会論の研究を参照し

ながら議論します。

第二の目的は、情報化と消費化にともない、私たちのリアリティ（現実感覚）や他者関係がどのように変化しているのかを考察することです。社会学者の見田宗介は、戦後日本のリアリティ変容を「現実」の反対語（理想・夢・虚構）を用いて説明しました。ゼロ年代という「ポスト虚構の時代」のリアリティについて、主に若者のコミュニケーションの特性／他者関係やサブカルチャーの消費の仕方に焦点を当てて考察するのが二つ目の目的です。

第三の目的は、2000年代以降の情報と消費の大きな変化が人びとの観光行動にどのように変え、今後どのような影響を及ぼす可能性があるのか、その萌芽的な事例を通じて今後の新たな他者関係とコミュニティのあり方について検討することです。

#### ■ 到達目標

・後期近代（ポストモダン）に新たに生じている社会現象に関して、情報メディア研究と観光研究という二つの異なる社会科学領域の研究を架橋することで理論的・経験的な考察を行う能力を身につけること。

・情報環境の変化が、私たちのコミュニケーション様式や消費形態をどのように変容させたかを理解すること。

・戦後の日本社会のリアリティの変容を踏まえ、ゼロ年代以降に姿を現しはじめた新たな世界観について理解を深めること。

・情報化と消費化が新たな段階に進んだ時の新たな観光の可能性について具体的に検討し、それに基づき今後の他者関係やコミュニティのあり方について考察するきっかけをつかむこと。

#### ■ 授業計画

この授業は次の3つのパートから構成されます。

<第1セクション：社会の情報化とコミュニケーションの変容>（1～5回）

吉見他（1992）、富田（2009）などを参照しながら、特に電話メディアの発達が私たちの他者関係やコミュニケーション様式にどのような影響を及ぼしてきたのかを考えます。また、Web 2.0に代表される情報通信環境（アーキテクチャー）がどの様に生まれ、現在そこでどのような試みが行われているかを、濱野（2008）、東・北田（2009）、東（2011）等を参照しながら考えます。

<第2セクション：情報化・消費化にともなうリアリティの変容>（6～10回）

見田（2006）の戦後の日本社会のリアリティ感覚の変容についての議論を起点に、「ポスト虚構の時代」（1990年後半以降）における、リアリティのあり方や他者関係について議論します。東（2001）、大澤（1996, 2008）、宮台（2010）、宇野（2008, 2011）等を比較検討する予定です。

<第3セクション：情報化・消費化とゼロ年代の観光>（10～15回）

第1セクションと第2セクションの考察に基づいて、情報化・消費化がこれからの観光にどのような影響を与えるかについて、受講生が独自のテーマを設定し研究発表を行います。

各発表について二名のディスカッサントをあらかじめ決めておき、発表のあとディスカッサントを中心に受講生全員でその日のトピックについて議論し理解を深めていく予定です。この発表に基づいて、学期末レポートを書いてもらいます。

#### ■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

各授業に先立って、必要な準備作業をお伝えします。

#### ■ 成績評価の基準と方法

授業への参加態度、学期末レポートに基づき評価します。評価の割合は以下の通りです。

授業への参加態度（発言の積極性等）：40%

プレゼンテーション：30%

学期末レポート（4000字程度）：30%

#### ■ テキスト・教科書

教科書の指定は特にありません。

#### ■ 講義指定図書

#### ■ 参照ホームページ

■■ 研究室のホームページ

■■ 備考

■■ 更新日時

2019/01/23 14:28:59